

講義レジュメ

講 師 佐々木 亨

内容・テーマ

戦略マップの作成を通して考える博物館

期 日 12/2

この講義・演習では、「戦略マップとバランス・スコアカード」を作成するプロセスを知った上で、これまで顕在化されてこなかった博物館の社会的価値を地域住民や納税者に理解してもらうための評価方法を考えます。

「戦略マップ」は、ありたい姿（ビジョン）に向けた複数の戦略（政策・施策）の因果関係を、「4つの視点」に基づいて整理したものです。一方、「バランス・スコアカード」とは、「4つの視点」に基づき、戦略と評価指標を階層化して示したもので、複数の評価指標を矛盾なく整合させ、戦略の共有化を図るものです。この手法は、当初、民間企業で発達したものであり、「4つの視点」とは通常、「財務の視点」、「顧客の視点」、「業務プロセスの視点」、「学習と成長の視点」を指します。

講義では、

1. 「戦略マップとバランス・スコアカード」とは何かについて説明し、民間企業や非営利組織における「戦略マップとバランス・スコアカード」の事例を紹介します。
2. 次に、「4つの視点」の中の「顧客の視点」に焦点をあて、博物館利用者だけでなく、地域住民や納税者にとっての博物館の社会的価値とは何かを考えます。
3. その上で、我が国の博物館評価でよく用いられている「業績測定手法」を参照しながら、博物館の社会的価値を地域住民に理解していただくための評価方法を考えます。

演習では、グループごとに、地域住民や納税者にとっての博物館の社会的価値を検討し、それに着目した「戦略マップとバランス・スコアカード」を作成するワークショップを行います。

- 1) 検討対象館種の決定、博物館の社会的価値の設定
- 2) 「戦略マップ」の作成
- 3) 「バランス・スコアカード」（特に「顧客の視点」に着目して）をグループごとに作成します。

〔参考文献〕

石原俊彦編著『自治体バランス・スコアカード』（東洋経済新報社, 2004）

龍慶昭・佐々木亮著『「政策評価」の理論と技法（増補改訂版）』（多賀出版, 2010）

ロバート・S・キャプラン, デビット・P・ノートン著『戦略マップ（復刻版）』（東洋経済新報社, 2014）